

「琵琶湖・淀川環境号」運行開始

栗東・人と自然の共生を考える

京都新聞 平成 21 年(2009)10 月 25 日 (日)



琵琶湖や淀川水系を 1 周する貸し切りの臨時列車「琵琶湖・淀川環境号」の運行記念セミナーが 24 日、滋賀県栗東市の栗東芸術文化会館さきらで開かれ、関係者が人と自然の共生について意見を交わした。

環境号は、大阪市の N P O 法人（特定非営利活動法人）「エコネット近畿」などが企画。J R 大阪駅を終着駅に東海道線～北陸線～湖西線を通るルートで運行され、大阪府や京都府、滋賀県から約 2 0 0 人が乗車した。

貸し切り列車「琵琶湖・淀川環境号」の運行を記念し、人と自然の共生について考えたセミナー（栗東市・栗東芸術文化会館さきら）

セミナーには、J R 栗東駅で途中下車した乗客らが参加した。基調講演で、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの内藤正明センター長が「持続可能な社会の実現には生活様式から経済、法律まで一体的な転換が必要で、市民の意識が重要になる」と強調した。パネル討論で環境団体のメンバーら 5 人が意見を述べたほか、滋賀県の嘉田由紀子知事も特別講演した。

セミナー終了後、参加者は再び列車に乗り込んだ。車内では、参加団体の活動紹介や淀川水系の現状報告などが行われた。